



今一度ノーマライゼーションについて考えよう
**「ともに学びともに生きる」 大阪大東市の実践から
山本和儀先生をしのんで**

施設長 松島栄一

回顧録になってしまいますが、今から15年も前、大阪の大東市に日帰りという結構な強行スケジュールで行ったことがあります。それは、「ともに学び、ともに生きる」という題名の本に出会ったのがきっかけで、その内容は、障害があっても地域の学校に行くのが当たり前という宣言をし、それを実践しているという大東市があるというものでした。その本に書かれていることはとても素晴らしいが、一方で、とても信じられなかったこともあり、どうしてもそこを見たかった。そこで無理を承知で行って来ました。当時は槇の木学園に勤務していて、ノーマライゼーションが声高に叫ばれていてもなかなか進まない現実、特に教育の分野での差別選別に悩んでいたこともあり、槇の木学園機関誌担当のメンバーと無茶な計画を立てても行ったのでした。そこで山本先生とはじめてお会いしたわけです。

実質、半日ばかりの滞在でしたが、とにかく衝撃的でした。地域の小学校、中学校に通うために、必要なことは用意し、例えば、通学に必要なならタクシー券、リハビリが必要な子供には、理学療法士を学校に派遣する等のことが、市の行政がシステムとして機能していて、それだけでもすごいことなのに、しかも肩の力が抜けて淡々と行われていることに驚きました。この実践は実は地域リハビリテーションという考えで集約されて、障害児のみならずお年寄りまでもが、地域で当たり前のように生きるということを実現するという施策の一部であるということもわかってきました。だから車いすにのった重度の障害児が、登校班で登校しているようなことが、普通に見られていたわけです。

そしてそれをけん引してきたのが山本先生で、御自身も実にさりげない、関西のおっちゃんという人あたりの方でした。でもお話を伺えば強い信念のもと、ものすごい戦いがあった実現してきているのですが、そういう気負いも悲壮感も無い。これが当たり前だと誇らしげにしかし淡々と話される。偉い先生というよりはそこら辺のちょっとスケベなおじさんであるという印象にまた圧倒されたわけでした。

「われわれの目指す地域社会における真のノーマライゼーションとは、正しく一人ひとりが無意識のうちに、当たり前日々の生活をおくることができる地域社会の実現であり、そこには障害の有無や軽重、年齢、性別は関係ないのである。」

山本和儀著「ともに学び、ともに生きる」より

<続く>

6月・7月・8月の予定

6月27日(月)～健康チェック

6月29日(水)～ボランティアさん受け入れ

7月1日(金)；臨時休業(職員研修)

7月13日(水)；外出日

夏季休業のお知らせ

今年度の夏季休業は、年度初めに作成した年間予定表を若干変更させていただきまして、以下の通りとなります。

8月12日(金) ～ 8月15日(月)

なかなかニュースでは報じられない「障害福祉情報」

「障害者虐待防止法案」が今国会で成立する見通し

2005年から議論が始まっているが、なかなか成立に至らなかった「障害者虐待防止法」が、超党派の議員立法により成立する見通し。その法案の内容は、全市町村に通報・相談窓口となる「虐待防止センター」、都道府県には「権利擁護センター」の設置を義務付け、家庭、施設、雇用の場が通報・直接調査の対象となるというもの。学校や病院については財源の制約や関係省庁・機関の合意を得られずに盛り込めなかったが、付則で3年後をめどに見直しを図る。

「障害者基本法改正案」が衆議院本会議で可決。

改正案が6月16日に衆議院本会議で可決。これから参議院に送られ今国会での成立される見通しが濃厚。障害者自立支援法はその違憲訴訟での和解・基本合意に基づき、同法廃止とともに新法制定が約束されているが、その新法の上位の法律である基本法の改正内容が注目されていた。しかし、人として普通に生きるために必要な支援を受けることに定率の負担を強いる自立支援法の過ちを明らかにして新法の性格をはっきりさせるはずの今回の基本法改正案には、肝心の「合理的配慮」や「差別」の定義が明記されないなど問題が多い。

～6月「けやき」ミニ・ギャラリー①～

<6月13日 茂原・宝島(焼肉店) 外出>



テーブルの上は肉ばかり…。 肉、焼いています。あっ、いい臭いが…。

ある日の「風」

～活動開始前～

今朝は、朝から曇り空。涼しいけれど湿度が高い風が吹き抜ける微妙な天気。拠点内はキース・ジャレットのジャズ・ピアノの音が流れる今日の「けやき・風」の様子は…。

今日、最初に拠点に登所してきたAさんは、早速パーテーションの中で座り込んでいます。中からなにやら嬉しそうな声が聞こえてきたり、何かを軽く叩いて軽快なリズムも聞こえてきたり。面白そうなので職員が覗きに行くと、いきなり目が合って素敵な笑顔。

ホワイトボードの前で、そこに貼ってある仲間の写真カードをいじったり、他の仲間の様子を指差して「あーっ！」と職員に大げさに訴えたりしていたBさんは、一緒に登所してきたCさんが、仲間の声や様子を時々気にしながらも、黙ってパズルを箱からごそそと出し始めたのをみて、自分も、とパズルを広げ始めたのでした。

Dさんは部屋の隅、少し皆から離れたところでひっそりと座っています。でも、今日も職員と目が合うと、それは素敵な笑顔とハイタッチをしてくれました。

Eさんはパタパタパタ…と今朝は少しせわしなくやってきました。職員が「本を読んでいるといいですよ」と伝えると本棚にいて好きな本を選んで、その本を持ってイスに座ってページをパラパラパラ…。程なく表情にも余裕が出てきて、穏やかな笑顔。今日もいいスタートが切れそうです。

・・・と、外では送迎車が一台仲間を乗せて戻ってきたようです。利用者さんや職員が一人、二人と増えていくたびに、仲間の様子がざわめきます。自分の連絡帳を見せる人、挨拶されるたびにチラッと振り向く人、中には急に怒り出す人も。いろんな風に皆がつながっているようです。

そうこうしているうちにBさんとCさんは、すでに先ほどとは別のパズルを組み始めたようです。

Dさんはイタズラをして職員に笑いながら注意されバツが悪そう、と思いきや、5分もしないうちに急に嬉しそうに「ア～」と声を出したのが面白かったのか、それに応えるようにパーテーションの奥でAさんが「メェ～」。さらにBさんがニカッと笑いながら仲間を指差して「誰～?」。隣でニヤニヤと笑うCさん。

そしてもう一台送迎車が到着。送迎車から降りてきたEさんは、今日、まだ登所していないFさんとGさんのいつも居る場所を指差し、この人は来ていないのか？と

職員に確認しています。一緒に降りてきたFさんは、大きく両手を上げて

大きな口を開けて「あ～♪」と笑顔で挨拶をしてくれています。

今日のところは、もう一人Gさんが来れば、活動開始！

そろそろ朝の挨拶の準備をしましょうか。

(西)

～6月「けやき」ミニ・ギャラリー②～

～「けやき・風」の活動のひとつ～

一宮の城山公園を目指して歩く…



立ち木でぶら下がり健康器

<ある日、「けやき・光」は誕生会を開きました…>



今日はだれかさんの誕生会～♪



「えっ？だれだっけ？」



「だれだ？」

「…♪」



「んーと、たしか…」



「そう、わたしなんです！」



「おめでとう！」

編集後記▼最近、クモの巣によくひっかかります。ちょっとばかり背が高いせいでしょうか。クモも迷惑なんだろうけれど、私も困っています。▼大好きな木の彫刻があります。眺めているとなんだか心からほっとします。だから何がどう変わるわけでもないのですが、ほっとします。▼先日、好きなプロ野球チームの試合を10年ぶりぐらいに球場観戦しました。7回裏まで勝っていたのに、逆転ホームランを打たれて、心からがっかりして帰ってきました。▼大きいところでは同じことを願って、それぞれが自分なりに頑張っています。でもお互い、上手くかみ合わないのが、皆が辛い。このところ何度もそんな状況を味わっています。▼活動中にオオスズメバチが室内に入ってきました。ドキドキしましたが、室内の電気を消したら、何事も無く外へ出て行きました。▼日々、いろんなことがあります。くだらないこと。深刻なこと。でも私たちは暮らしています。いろんな人と、愚痴をこぼしながら、でも工夫もして、一息ついて、また信じていきます。そうして私たちはつながりのなかでお互いの安心を生み出していきます。

(この梅雨時にフキの葉っぱを傘にポケットと突っ立っている河童になりたい西)